

運輸安全委員会ダイジェスト

JTSB (Japan Transport Safety Board) DIGESTS

第 10 号 (2013 年 10 月発行)

鉄道事故分析集

踏切等での自動車に関係する事故の防止に向けて

1. はじめに	1
2. 踏切等自動車関係事故の発生状況	2
3. 事故調査事例 (5 事例)	8
4. まとめ	16

1. はじめに

踏切事故は、踏切遮断機や警報機の整備及び踏切道の廃止等により、近年減少傾向にありますが、列車が大型の貨物自動車等に衝突すると、人的、物的被害が拡大するほか、ひとたび事故が発生することで列車の運休、遅延等が発生し、多大な影響を及ぼすこととなります。

平成 24 年度に発生した踏切事故は、運転事故全体の約 36% に当たる 295 件で、死傷者数は 220 人でした (国土交通省鉄道局「鉄軌道輸送の安全にかかわる情報」※参照)。

運輸安全委員会では、これらの事故のうち、5 人以上の死傷者を生じたもの、乗客、乗務員等に死亡者を生じたもの等について調査を実施しています。

当委員会における直近の事故調査、調査報告書公表状況は以下のとおりです。

- ・普通列車が踏切道上で停止している大型のダンプと衝突し、乗客 4 名及び運転士が負傷 (平成 23 年 11 月発生、平成 24 年 8 月調査報告書公表)
 - ・特急列車が踏切道で落輪した普通乗用自動車と衝突し、同自動車が大破 (平成 23 年 11 月発生、平成 25 年 9 月調査報告書公表)
 - ・特急列車が踏切道で車両運搬車に衝突、脱線し、乗客 13 名、運転士及び車両運搬車運転者の計 15 名が負傷 (平成 25 年 2 月発生、調査中)
 - ・普通列車が踏切道で自動車と衝突、脱線し、乗客 1 名が負傷 (平成 25 年 4 月発生、調査中)
- また、路面電車と自動車が軌道敷内で衝突する事故についても当委員会で調査を行っています。
- ・路面電車が左側から交差点内に進入してきた大型トレーラーと衝突、脱線し、乗客 4 名及び電車運転手 1 名、並びに同トレーラーの運転者 1 名が負傷 (平成 24 年 9 月発生、平成 25 年 9 月調査報告書公表)
 - ・路面電車が、交差点において左側から軌道敷内に進入してくる路線バスに衝突し、電車の乗客 13 名、バスの乗客 5 名が負傷 (平成 25 年 7 月発生、調査中)

このような状況を踏まえ、本号では、踏切、軌道敷内での自動車に関係する事故に対する再発防止を図る観点から、各種統計資料とともに、当委員会が行った事故調査事例の紹介を行うこととしました。

関係者のみなさまには、なお一層の安全確保につとめていただくとともに、本号が、自動車運転者に対する啓発に向けての教材等として広く活用されることなどにより、同種事故の未然防止に資することになれば幸いです。

※ 国土交通省鉄道局：鉄軌道輸送の安全にかかわる情報
http://www.mlit.go.jp/tetudo/tetudo_fr8_000015.html



本号における「踏切等での自動車に関係する事故」の定義
 平成 13 年 10 月～25 年 8 月までに発生し、旧航空・鉄道事故調査委員会及び運輸安全委員会の調査対象となった鉄道事故のうち、踏切道及び軌道敷内において自動車 (鉄道事業者等が使用する作業用車を除く) が関係し、発生した事故をいう。